

0. 本調査研究の問題意識

福祉をはじめ、様々な分野で「地域の力」への期待が高まっている。

- ・ 地域密着、住民参加による福祉サービス運営への転換
- ・ 防災や防犯対策における地域の力への期待

一方、既存の地域活動では対応できない課題が顕在化し、地域住民の意識の変容も求められている。

- ・ 地域住民からの支援を必要としている人々の中には、地域住民による偏見や誤解によって地域での生活に困難を抱えている人々が含まれており、住民自身の意識の変容や合意形成が必要（例：ホームレスへの支援、精神障害者への支援等）



既存プログラムの延長線にとどまらない、

新たな視点での地域の福祉力を向上させるためのプログラムの必要性

5つの視点からの見直し

地域福祉の推進力は、「地域の福祉力」と「福祉の地域力」の『合力』であるという考え方の導入（図1参照）

地域の福祉力の出発点として異質性や多様性を共有する「出会いの場」への着目
「出会いの場」から生まれる、住民同士の「協働の場」、「協議の場」の強化
支援者、当事者の立場を越えた、住民に求められる力として、地域と交わる「社交の力」への着目（当事者の「生きる」力）

地域の自立を支える力としての「地域の福祉力」（事業者を地域の中から育てる「福祉の自給率」を高める必要性）

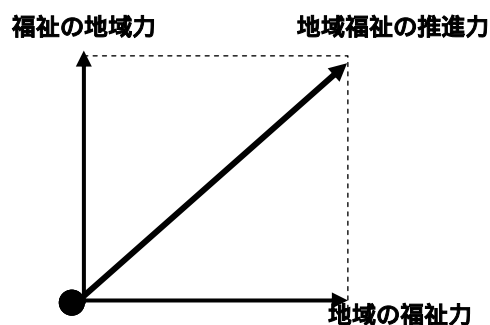


図1 地域福祉の推進力

「地域の福祉力」とは

地域が多様性を受け入れ、活動を作り出し、地域のありようを構想していく力

「福祉の地域力」とは

専門職や行政のなかに求められる「地域に入り込み、地域の流儀に沿った、地域を生かす力」

1. 地域の福祉力

「住民参加」の問題点

- ・ これまでの住民参加は、住民にとって見えやすく、取り組みやすい問題にとどまる傾向があったのではないだろうか。

(参加する住民自身の意識の変容や地域の合意形成が求められるような問題にはアプローチできず、解決の難しい問題が放置されたままになりやすい。)

それを乗り越える上で重要なことは、単純に地域福祉活動の量や参加人数を増やすことではなく、多様性や異質性に対する住民の理解や共感する能力を高めることであり、そのためにはまず、(それを意識した)住民同士がお互いを知り合うためのさまざまな「出会いの場」づくりが必要

さらに、「出会いの場」から生まれる「協働の場」、「協議の場」づくりを強化する必要性

地域の福祉力を高めるプログラム(3つの「場」)

出会いの場

= 異質な者同士が地域で出会い、コミュニケーションし、ともに体験する場
(例：福祉教育、点検活動、マップ作り活動、福祉まつり等福祉に関わる啓発活動)

協働の場

= で共有されたニーズに対して住民同士が協働して問題解決に取り組む場
(例：ふれあい・いきいきサロン、見守り・支援活動、小地域ネットワーク活動、住民参加型在宅福祉サービス、地域福祉権利擁護事業における生活支援員活動)

協議の場

= 地域福祉活動者や団体間の連携、課題の共有を図る場、住民の協働だけでは解決できない問題を他の主体や行政等も含めて協議し、調整・計画化を図る場
(例：ボランティア・市民活動団体の交流会、勉強会、地域福祉計画・地域福祉活動計画の策定、日常生活圏域におけるサービス調整の場)

2. 福祉の地域力

地域福祉の推進力は、住民による「地域の福祉力」のみによって形成されるのではなく、専門職や行政のなかに求められる「福祉の地域力」の形成とともに成り立つもの



福祉専門職、福祉行政の地域化 = 「福祉の地域力」の必要性

個別援助ワーカーの地域力

= 個別援助において地域の力を奪わず、活かす取り組み、姿勢

コミュニティワーカーの地域力

= 地域に多様な出会いの場をつくと同時に、協働の場、協議の場への発展や連動を働きかける取り組み、姿勢

福祉行政職員の地域力
= 地域住民との協働に積極的に参加する姿勢、福祉施策を「地域（福祉）化」
させる仕事の組み立て（地域福祉計画の場はそれを組み立てる空間）

3 . 強化プログラムの提案

具体的な活動のためのプログラム例

「出会いの場」を強化する（多様な人々の参加を得る）

- ・ 福祉教育の地域社会における展開
- ・ 新たな活動内容・活動形態の提案（自治型地域活動、福祉活動・地域活動の事業体の活性化）
- ・ 定年退職者への働きかけ（シニアライフ支援推進事業）

「協働の場」を強化する

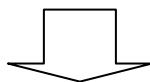
- ・ サロン活動の多様化・活性化（まちの喫茶室、共生型サロン、常設型サロン）
- ・ 拠点作り（商店街や福祉施設の活用）
- ・ 見守り・支援活動の拡充（生活支援型小地域ネットワーク、安心・安全・福祉のまちづくり活動への拡大）
- ・ 生活経営能力が低下したり、適切なコミュニケーションがとれず、地域社会から孤立した人々への支援（地域自立生活マネジメント事業、福祉後見サポートセンター）

「協議の場」を強化する

- ・ 日常の活動に関する協議の場の強化
- ・ 中長期の活動を見通す協議の場の強化（小地域福祉活動計画づくりの推進、計画のメンテナンスサイクルの確立）

福祉の地域力と地域の福祉力の「接点」を強化する

- ・ 地域の福祉力を育む基盤組織の確立
- ・ 福祉の自給率を高める
- ・ 地域ケア推進プラットフォームの確立
- ・ 財源の確保（共同募金の活用、他施策・他制度の財源活用、公費補助ルートの確立）



このほか各地域において、知恵を出し合い、さまざまな出会いの場を創出し、協議の場、協働の場を広げるための新しいプログラムの開発に取り組むことが必要。